



平成29年7月26日

中部地方整備局

清水港湾事務所

海辺の「体験の場」創出にご協力頂ける団体を決定いたしました ～清水港で“港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト”を実施します～

清水港内で一般市民の方々が実際に海辺を見て、遊んで、学べる「体験の場」を創出する、“港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト”を実施するため、6月13日付けで協力団体を募集したところ、複数団体の応募があり、選定の結果、以下の団体に本プロジェクトに協力いただくことになりました。

1. 協力団体及び実施内容

協力団体	実施内容
日建工学株式会社	アミノ酸コンクリートブロックを使った藻場の生物観察【別紙1】
株式会社不動テトラ	環境共生型ブロックの設置による環境創造と市民との共創【別紙2】
鈴与建設株式会社	ドローンをはじめとする港湾技術体験【別紙3】

提案の一部について8月18日（金）の「夏休み親子見学会」で実施いたします。なお、今回の募集に際し、株式会社古川組から協力の申し出があり、この「夏休み親子見学会」にあわせて稚魚の放流体験も実施します【別紙参考】。

「夏休み親子見学会」の詳細は下記HPにて、後日詳細を発表いたします。

清水港湾事務所 HP <http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/>

2. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、静岡県政記者クラブ、静岡市政記者室、
港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス、
マリタイムデーリーニュース

3. 問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 企画調整課

江口（えぐち）、坪倉（つぼくら）

TEL : 054-352-4148 FAX : 054-353-3072 E-mail : pa.cbr-shimizukikaku@mlit.go.jp

企画概要

より多くの市民が、港・海辺に親しみ楽しむための「きっかけ」を提供し、地域が一丸となった「海洋文化拠点」形成推進の一助となることを目指します。科学的な要素を持った技術(素材)を用い、ハード・ソフト両面の体験を通じて港・海辺の防災と環境を学ぶ機会を提供します。

併せて大学・企業等による連携づくりと拡大を進め、プロジェクトを継続的に実施できる自律的な仕組みづくりにつなげたいと考えています。当面はマリパークでの活動を中心としますが、順次フィールド・活動を広げていければと考えています。



市民が港・海辺の屋外型学習会で「アミノ酸コンクリート・消波ブロック」を使って

**防災
と
環境
を
体験
し
学ぶ**

- ① アミノ酸コンクリート(アミコン)で消波ブロック模型を作る
- ② ミニ造波水槽と消波ブロック模型で波と防災について学ぶ
- ③ アミノ酸コンクリートブロック(アミコンブロック)で海藻を育て魚や貝の住み場を作る
- ④ 浜辺・藻場の生き物を観察する

ミニ消波ブロックづくり



ミニ造波水槽での実験



アミコンブロックによる藻場づくり



藻場の生物観察会



誰もが興味を持ち楽しめる「アミノ酸コンクリート(アミコン)」を用いて、マリパークの人工海浜等を活用した屋外型の学習会を開催します。

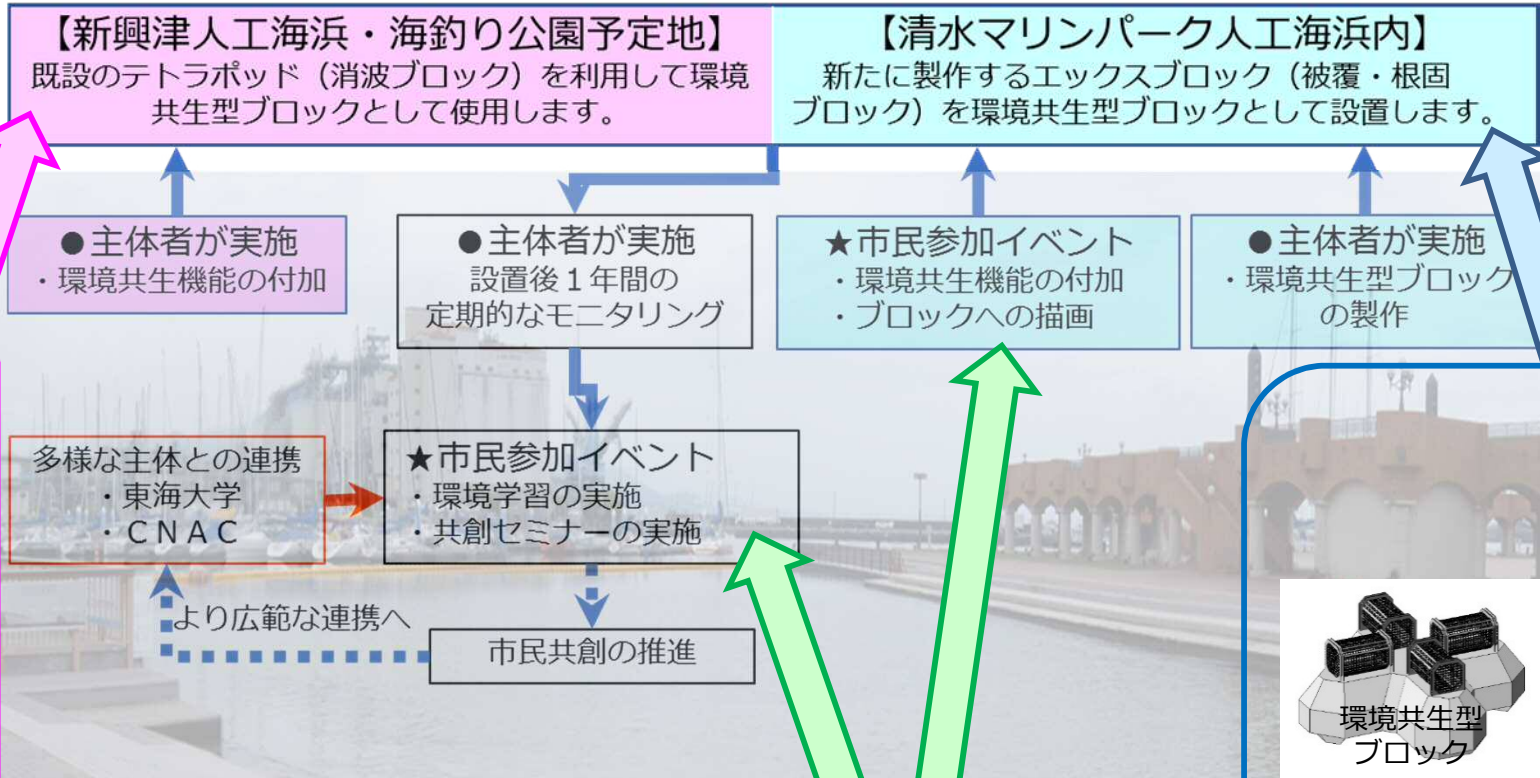
学習会では、①紙コップとアミコンで消波ブロックの模型作りを体験したり、②ミニ造波水槽と消波ブロック模型で防災の実験などを行います。また、人工海浜にアミコンで製作したブロックを沈め、③海藻を育て魚や貝の住み場づくりを行い、その場を活用して④藻場の生物観察会を行います。体験を通じて、海に触れるとともに防災と環境について学ぶことができます。ここでの成果を踏まえ、市民の理解の下、アミコンなどの新素材を港湾施設に活用することが可能となります。

清水港「港湾技術を活用して海辺の環境創造プロジェクト」 環境共生型ブロックの設置による環境創造と市民との共創



別紙2

海辺に生息する生物に視点を当て、環境共生型ブロックによる環境創造を図り、見て、遊んで、学べる「体験の場」を創造します！



〈海辺の環境創造プロジェクト〉

清水港では、物流・観光の機能強化や防災力向上のための整備が進められています。その中で一般市民の皆様が実際に清水港について、遊びながら学べる「体験の場」をご案内します。また、これをきっかけに港湾工事に対する理解と興味をもっていただきたいと思います。



3Dスキャナーを使った測量体験

測量用の3Dスキャナーを使って周りの景色や自分自身の3Dデータを作成してみよう。

大型係船曲柱の実寸大模型の展示

既存の係船曲柱と現在設置工事を進めている大型係船曲柱の実寸大模型を比較して大きさを体感しよう。



ドローンを使った空の旅体験

ドローンで普段見ることのできない視点から清水港を見てみよう。

ペットボトルで液状化現象の実験

ペットボトルで液状化現象のメカニズムを理解してみよう。



図7 今回新たに作成した液状化の体験装置

概要版(A4 1枚)

株式会社古川組静岡支店では「豊かで親しみのもてる海づくり計画」と題し、平成19年度から毎年、県内の港湾工事が行われる地域の小学生を対象に稚魚の放流体験活動を通じて、海の大切さ、港湾施設等の機能、環境保全の重要性を理解してもらおう取組みを行っています。

期間	平成29年8月	13時30分～	1回実施
実施場所	清水マリンパーク人工海浜		
放流魚	ヒラメ	500尾	
参加対象者	30組 親子若しくは小学生高学年		
実施スタッフ	当社社員 10名		
費用	参加費無料		



港湾技術を活用した海辺 の環境創造プロジェクト

＜人工海浜の設計概要＞

海浜勾配level～1:5 -0.5mで砂留堤で流失防止し、養浜砂の中央粒径0.5mmとして海浜形状の安定を図っている。階段は海藻で滑るのですべり止めを施した。

遊泳ではなく、潮干狩りや渚遊びが目的である。今回のような稚魚放流では水面との落差がないので放流後の稚魚の観察もできる。

